

## 2. 義務教育学校における旅行的行事の方向性について

### 1. 基本的考え方

- (1) 統合にあたっては、「6年生」と「9年生」でそれぞれ修学旅行を実施する。
- (2) 修学旅行実施に向けて、事前に子供たちの傾向や行動を把握したり、集団宿泊活動に当たってのマナーやスキルを習得させたりする観点から、それぞれの前年度となる「5年生」と「8年生」で、宿泊学習を実施する。
- (3) 旅行的行事に関わる取組の時数全てを「学校行事」とはせず、「総合的な学習の時間」での学習と関連させながら、適切な旅行のねらいを設定する。
- (4) 旅行的行事には、それぞれ（個人又はグループ）が設定した課題や当日までに調べた学習内容をさらに探求することができる場と時間を適切に設定した行程とする。
- (5) 行程や予算、小遣い額などは現在の各小学校のものを基本とし、統合前と後で大幅な違いが生じないように留意するとともに、教職員のノウハウの継承にも配慮する。

### 2. 義務教育学校前期課程での旅行的行事の方向性について

#### (1) 修学旅行

- ア 時期は、運動会後からの取組が可能となる「6月3週」の水・木曜とし、金曜日を回復休業日とする。
- イ 行程は「白老、壮瞥、留寿都+α」というルートとし、『ウポポイ』を「総合的な学習の時間」と関連付けた探求学習の場とする。
- ウ 宿泊先は「ルスツリゾートホテル」とする。
- エ 予算は「                      円～                      円程度」を見込む（見積合わせ）
- オ 小遣いは「                      円以内」とする。
- カ 行程（案）は別紙2のとおり。

#### (2) 宿泊学習

- ア 時期は、運動会後からの取組が可能で、修学旅行と重ならない「6月4週」の水・木曜とし、金曜日を回復休業日とする。
- イ 1日目は『ネパール砂川』を中心とした諸活動を行い、「総合的な学習の時間」と関連付けた学習を展開する。
  - ※午前は調理体験、午後からは「北海道地域環境学習講座 eco-アカデミア」（担当窓口：北海道環境生活部環境保全局環境政策課企画調整係）を活用した外部講師をお招きして講話をいただく。
  - ※講話後は、ネパールのプログラムをいくつか組み込む。
- ウ 2日目は『海洋センター』を利用し、カヌーやボートなどの体験活動を行う。
  - ※水辺の危険があるため、事前指導及び引率教員による現場指導を徹底する（人数が多くなることから、事故の防止を徹底する）
- エ 宿泊先は「ネパール砂川」とし、移動にはスクールバスを活用する。
- オ 予算は「                      円～                      円程度」でプログラムを組む。
- カ 小遣いは「                      円以内」とする。

3. 義務教育学校後期課程での旅行的行事の方向性について  
修学旅行、宿泊学習ともに、現在の砂川中学校の行程を踏まえる。

#### 4. その他

- (1) 前期課程の修学旅行については、砂川中学校が旅行の見積もりを取る際に、合わせて依頼する。
- (2) 前期課程の修学旅行については、見積もりを比較し、小中一貫教育推進委員会で決定する。
- (3) 前期課程の宿泊学習については、ネパール砂川や海洋センターの予約を教育委員会事務局で行う。

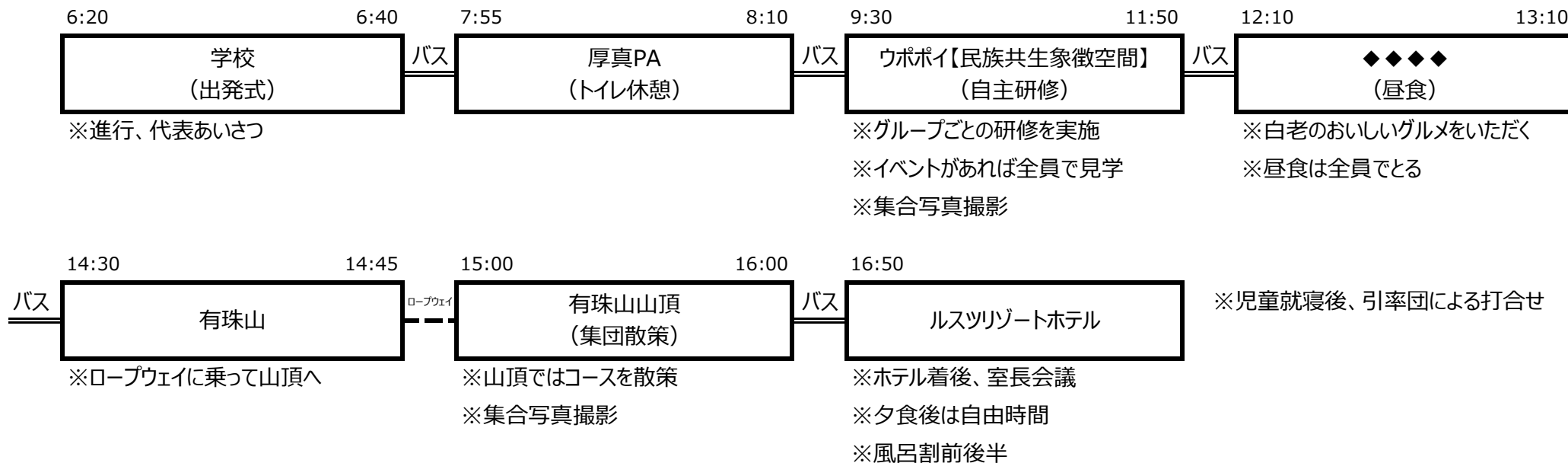
## 砂川市立義務教育学校（前期課程） 修学旅行行程

日 曜 令和8年6月17日（水）～18日（木）

参加児童 98人 ※借り上げバス3台（学級ごと）

引率教員 9人 ※80人以上5名、3学級以上1名、特別支援3名

### 旅 程 1日目



### 旅 程 2日目

